視野障害者の運転適正評価 ～ 長野県における取り組み

桔梗ヶ原病院

園原 和樹

【目的】緑内障や脳血管障害による視野障害と交通事故との関連が報告されているが、運転能力を損なう視野障害の範囲は明らかとなっていない。日本の道路交通法では、視野障害者の運転可否に関する明確な基準は設けられておらず、両眼が視力を有していれば視野についての制約はないのが現状である。一方で、脳血管障害の後遺症として視野障害を生じることがあり、今回、視野障害を有する脳血管障害者の運転適正評価について検討した。

【方法】長野県には、医療機関・指定自動車教習所協会・運転免許センターの関係者が集まり、脳血管障害者の運転支援について協議する「長野県障がい者運転支援連絡会」が存在する。2022年から2023年の2年間にわたり、信州大学医学部附属病院眼科学教室の協力を得て、視野障害を有する脳血管障害者の運転適正評価に関する話し合いを行った。

【結果】長野県障がい者運転支援連絡会では、視野障害を有する脳血管障害者の運転適性評価について、次のように定めた。(1)視野障害が示唆された場合、視野検査を実施して視野障害の部位を定量的に評価する、(2)運転適性評価は医療機関・教習所・免許センターの三者が連携して実施する、(3)医療機関での評価と教習所の実車評価を組み合わせ、多角的な視点から運転能力を総合的に評価する。

【結論】運転適性評価の方法を定めることで、視野障害を有する脳血管障害者の運転再開への道が開かれた。